

# 浜頓別町の歴史

## 先 史

浜頓別町には、旧石器時代の石刃核がポン仁達内遺跡で発見され、また、山軽台地遺跡からは、細石刃核と細石刃が出土し、今から 12,000 年以上前からヒトの足跡が認められます。  
以後、縄文、続縄文、擦文の各時代を経てアイヌ時代の有史に入る。

## 有 史

### 〔年次〕

### 〔記

### 事〕

- 正保年間 「ツウヘチエソ」と正保御国絵図に記される。
- 寛文 10 年 (1670) 「つんへつ村」と初めて頓別の地名が記録される (津軽一統志)。
- 元禄 13 年 (1700) 松前藩が幕府に呈上した元禄御国絵図に「つうへち」で図示される (元禄御国絵図)。
- 文化 4 年 (1807) トンベツにアイヌの家 12 軒、男女 67 人 (アイヌの長シリメキシユエ) と戸口について最初の記録あり (西蝦夷日記)。  
斜内山道開削 (享和元年の説もあり)。
- 弘化 3 年 (1846) 松浦武四郎トンベツ川を舟で渡りシヨナイ (斜内) に泊まる (再航蝦夷日記)。
- 安政 3 年 (1856) 松浦武四郎ふたたび通る。トンベツ、シヨナイについて具体的に記録、絵図あり (武四郎廻浦日記)。
- 明治 2 年 (1869) 10 月 21 日朝ブラキストン氏枝幸を出発、斜内に 2 泊 (熱のため休息) 23 日朝、頓別を通過、夕方猿拂着宿泊 (ブラキストン著「蝦夷の中の日本」)。
- 明治 4 年 (1871) 判官松本十郎北見国各郡を巡視トンベツ、アイヌの家 2 戸あり川守をしている (北見州経験誌) と書く。
- 明治 5 年 (1872) 枝幸郡戸口 36 戸、人口 153 人 (男 85 人、女 68 人)。
- 明治 7 年 (1874) ライマン氏 9 月 22 日枝幸出発シヨセツの沢より馬で斜内山道を越え斜内に一泊。
- 明治 8 年 (1875) 松本判官最後の北見国巡回。
- 明治 11 年 (1878) 枝幸郡に枝幸、頓別、歌登、礼文の 4 ヶ村が設けられた。斜内にアイヌの家 6 戸。
- 明治 17 年 (1884) 斜内において和人 (姓不詳) 1 人漁業を営む。
- 明治 21 年 (1888) 大橋良次斜内で初めて罾網を試みる。
- 明治 22 年 (1889) 佐藤子之助、頓別川渡船場管理人となる。
- 明治 24 年 (1891) 枝幸村に 4 ヶ村戸長役場を設置。
- 明治 26 年 (1893) 頓別駅通所創設、取扱人土佐久三郎 (道庁告示明治 28 年)。
- 明治 27 年 (1894) 斜内に松本忠太郎の漁場 1 ヶ所開設 (佐藤長五郎本村和人定置漁場に定住の始めとす)。
- 明治 28 年 (1895) 渡船場管理人佐藤子之助、頓別駅通所取扱人を命ぜられ旅人の便を図る。これより次第に定住する者が増える。  
また、山軽駅通所新設 (初代取扱人成田徳蔵) 頓別川口に駅舎新設 (道庁)。
- 明治 29 年 (1896) 斜内に寺子屋式の児童教育所が新設 (私設)。頓別村 17 戸、89 人。
- 明治 30 年 (1897) 斜内山道開削。
- 明治 31 年 (1898) 頓別川の支流ウソタンナイ上流に豊富なる砂金の産出あり、一時は東洋のクロンダイクとまで内外に宣伝され、一説によると採取人はペイチャン川 (中頓別町) と合せ約 1 万 6 千人を数えた。

- 明治 33 年 (1900) 頓別原野 39 線まで植民地区画設定になり、農業に志す者漸次入植する。  
ウソタンナイ砂金区 (ナイ川) より 205 匁 (768.75 g) の日本最大の金塊発掘。  
板垣退助牧場経営の目的で土地の払下げをうける。(現栗沢付近)。
- 明治 37 年 (1904) 頓別原野 19 線 (現下頓別市街) に高藤嘉平氏移住。
- 明治 38 年 (1905) 全村定住者 53 戸、263 人。斜内簡易教育所開設 (斜内小学校の前身)。
- 明治 41 年 (1908) 斜内教育所第 1 教授所開設 (頓別小学校の前身)。
- 明治 42 年 (1909) 鉄道の敷設陳情、戸数 232 戸、1,091 人。菅野榮助農場 (154 番地) 払下げをうける。  
2 級町村制施行により頓別、歌登、礼文、枝幸が枝幸村に併合される。
- 明治 43 年 (1910) 鉄道速成期成会同盟結成し、大字頓別村より中村卯太郎、及川市太郎、相沢亀吉、北又次郎、  
佐藤孫蔵、橋本直吉、松永富雄、高藤嘉平などが参加する。戸数 410 戸、1,577 人。  
斜内教育所第 3 教授所開設 (下頓別小学校の前身)。斜内教育所第 4 教授所開設 (宇曾丹小  
学校の前身)。
- 明治 44 年 (1911) 頓別郵便局開局。
- 明治 45 年 (1912) 頓別原野 22 線 (現下頓別) に駅通開設近藤勝之助官命により取扱人受ける。
- 大正元年 (1912) 枝幸水産組合ウソタンナイ支流ヌルイ川にさけ・ますふ化場創設 (能力 さけ 400 万粒、ま  
す 100 万粒)。  
第 1 教授所が頓別尋常小学校と改称して独立。
- 大正 3 年 (1914) 道庁令森林防火組合設置規則による火防組合、消防組合組織、木造取引きさかんとり木材  
の道外移出高 146 千石余、価格 161 千円余。
- 大正 4 年 (1915) 漁獲高 にしん 1,340 石 さけ 210 石 ます 100 石 雑魚 3,300 石 ほたて貝  
60,000 斤あり。木材、農水産物取引巨額に上り商船などの積取船 96 隻 (71 千 t)。三井物  
産株式会社頓別木挽工場操業開始。頓別で金井貝灰工場操業。頓別村農会設立。商業組合 (任  
意団体) 結成。
- 大正 5 年 (1916) 頓別沿岸に高潮あり、家屋、商品流失、市街の大半が被害を受ける。(被害額 6 万円余り)。  
豊寒別教育所開設 (豊寒別小学校の前身)。  
**枝幸村より分村、2 級町村制施行、頓別に役場設置 (1,120 戸 4,700 人)。**
- 大正 6 年 (1917) 学校令により教育所から尋常小学校に改称 (下頓別、宇曾丹、斜内、豊寒別)。
- 大正 7 年 (1918) 音威子府、浜頓別駅間鉄道の開通により浜頓別駅営業開始。浜頓別特別教授所開設。  
西尾英蔵下頓別に木材工場創設。  
私設の仁達内特別教授場開設 (のちの仁達内小学校の前身)。
- 大正 8 年 (1919) 山火事、飛火して浜頓別市街 312 戸、木材 7 万石焼失。  
道道音威子府浜頓別線完成、河合農場開設 (戸出農場の前身)。
- 大正 9 年 (1920) 下頓別小学校宇津内特別教授場開設 (のちの宇津内小学校の前身)。  
下頓別郵便局開局。  
頓別水電株式会社 (社長中村卯太郎) 宇曾丹川にて水力発電所建設。浜頓別、下頓別、中頓  
別市街に送電する。  
第 1 回国勢調査。浜頓別郵便局開局。頓別村愛国婦人会結成。山軽特別教授場開設 (昭和  
11 年閉鎖。昭和 24 年浜頓別小学校山軽分校として再開校)。
- 大正 10 年 (1921) 中頓別町が分村。岩橋源之助宇曾丹にて水田試作、良好な成績をあげる。  
斜内沖にてホタテ貝曳出漁中漁船 12 隻遭難、12 人死亡、28 人救助、8 人行方不明の重大事故  
あり。

- 大正 10 年 (1921) 役場庁舎旧市街 (現頓別) より新市街 (現浜頓別 4 町内) に移庁。  
浜頓別尋常高等小学校開校。
- 大正 11 年 (1922) 宗谷線 (旧天北線) 稚内まで開通する。頓別処女会設立。  
浜頓別尋常小学校大正特別教授場開設 (のちの清和小学校)。
- 大正 13 年 (1924) 道庁補助事業で、乳牝牛が導入される。下頓別尋常小学校が下頓別尋常高等小学校となる。
- 大正 15 年 (1926) 開村 10 周年記念式典挙行。
- 昭和 2 年 (1927) 有限責任旭信用販売購買利用組合発足 (現農業協同組合の前身)。
- 昭和 5 年 (1930) 宗谷線を北見線と改称。  
北海道酪農連合会頓別分工場 (乳製品) 設置。戸出農場で初めてトラクター導入 (ドイツ製 25PS)。
- 昭和 7 年 (1932) 頓別駅通所廃止 (30 年 10 ヶ月で閉鎖)。
- 昭和 8 年 (1933) 興浜北線起工。仁達内駅通所開設。宇津内炭鉱操業開始 (目標産量 1 万 t)。  
無限責任頓別漁業協同組合設立。カニ缶詰工場設立操業開始。
- 昭和 9 年 (1934) 浜頓別尋常高等小学校安別教授場開設 (のちの開明小学校)。
- 昭和 11 年 (1936) 興浜北線開通 (工事費 966 千円)。同 19 年撤去、同 20 年再開通。
- 昭和 12 年 (1937) 日中戦争始まる。
- 昭和 16 年 (1941) 村内の各小学校を国民学校と改称。太平洋戦争始まる。
- 昭和 19 年 (1944) 日本通運(株)浜頓別支店が開設。
- 昭和 20 年 (1945) 太平洋戦争終結。
- 昭和 22 年 (1947) 佐々木熊吉公選初代村長に就任。浜頓別、下頓別両中学校開校。  
村内の各国民学校を村立の小学校と改称する。
- 昭和 24 年 (1949) 下頓別小学校上茂宇津内分校開校。北海道金山(株)ウソタンナイ砂金の機械掘り開始 (昭和 27 年世界一の移動選金機導入)。
- 昭和 25 年 (1950) 道立稚内高等学校浜頓別分校開校。
- 昭和 26 年 (1951) 佐々木熊吉第 2 代町長に就任。分村 3 5 周年・庁舎落成。頓別村を浜頓別町と改め町制施行、  
記念式典・記念祝賀会を挙行。浜頓別町章の制定。  
頓別漁港第 1 種漁港の指定を受け整備始まる。町立浜頓別高等学校設立認可。
- 昭和 27 年 (1952) 道立農業試験場宗谷支場発足 (昭和 39 年より天北農業試験場)。斜内前浜春にしんの群来、  
海面乳白色となる。
- 昭和 28 年 (1953) 第 1 回家畜共進会開催 (旧雪印前庭)。宗谷家畜保健衛生所開所 (現旭ヶ丘)。
- 昭和 30 年 (1955) 寺林五郎吉第 3 代町長に就任。坂下堯道議会議員当選 (第 1 期)。  
乳牛増産 5 ヶ年計画樹立 (目標 2,500 頭)。
- 昭和 32 年 (1957) 東天北集約酪農地域指定。浜頓別高校道立移管。上水道施設 (豊寒別) 完成。浜頓別国民健康保険病院運営開始。
- 昭和 33 年 (1958) 浜頓別消防会館新築。(現商工会館横)  
浜頓別市街大火 (35 戸全半焼)。クッチャロ湖畔堅穴遺跡発掘調査 (北海道大学、大場教授)。
- 昭和 34 年 (1959) 寺林五郎吉第 4 代町長に就任 (第 2 期)。坂下堯道議会議員当選 (第 2 期)。  
財政再建準用団体適用。
- 昭和 35 年 (1960) 浜頓別商工会設立。富丘小学校開校。
- 昭和 36 年 (1961) 近藤信吉第 5 代町長に就任。台風 9・10 号で農作物被害あり。北見線を天北線と改称。  
稚内土木現業所頓別事業所開設。

- 昭和 37 年 (1962) 浜頓別観光協会設立。神威岬灯台設置。知駒岳に TV 中継アンテナ設置。  
公営住宅工事費訴訟事件町が敗訴。
- 昭和 38 年 (1963) 坂下堯道議会議員当選 (第 3 期)。浜頓別営林署開設。稚内開発建設部出張所開設。  
ポンニタチナイ新営農村型モデル地区指定。電報電話局開局。  
沿岸漁業構造改善事業地域指定 (宗谷管内一円)。  
浜頓別専門店会設立。第 1 回クッチャロ湖水まつり開催。
- 昭和 39 年 (1964) 町営と畜場開場。乳牛 2,000 頭突破。農業構造改善事業地域指定。
- 昭和 40 年 (1965) 近藤信吉第 6 代町長に就任 (第 2 期)。豊牛スキー場新設。帆かけスキーがクッチャロ湖の名物となる。
- 昭和 41 年 (1966) 魚菜市场運営開始。浜頓別・豊富間横断道路完成。浜頓別農協と浜頓別開拓農協統合調印。  
浜頓別クッチャロ湖畔堅穴群が北海道史跡に指定。浜頓別中学校新校舎へ移転。
- 昭和 42 年 (1967) 浜頓別町農協スーパー新築開設 (大通り 2 丁目)。
- 昭和 43 年 (1968) 開基 90 周年記念式典挙行。浜頓別音頭の作成。クッチャロ湖、ベニヤ原生花園、斜内山道  
が北オホーツク道立自然公園に指定 (43.5.15 道告示第 965 号)。  
宗谷家畜保健衛生所移転改築 (緑ヶ丘)。
- 昭和 44 年 (1969) 坂下堯第 7 代町長に就任。財政再建準用団体完了。北オホーツク畜産センター運営開始。  
天北線興浜北線上の跨線橋完成 (道道、のち国道 275 号)。福祉センター開設。
- 昭和 45 年 (1970) 町議会議員 (一行 12 名) 訪ソ視察。頓別漁業協同組合改築落成。  
緊急開拓制度打切りとなり一般農政に移管となる。
- 昭和 46 年 (1971) 過疎地域指定。国営農地開発事業頓別地区着手。南宗谷衛生施設組合発足。  
緑ヶ丘保育所開所。仁達内小学校廃校 (3 月 31 日)
- 昭和 47 年 (1972) 浜頓別町土地開発公社設立。第 1 期町づくり計画策定。山村振興地域指定 (47.2.3 総理府告  
示第 5 号)。清和小学校廃校 (3 月 31 日)  
浜頓別の街に交通信号機第 1 号設置。学校給食開始。ホタテ稚貝放流開始。
- 昭和 48 年 (1973) 坂下堯第 8 代町長に就任 (第 2 期)。南宗谷消防組合発足。頓別漁港第 2 種に昇格。第 5 次  
漁港整備計画起工式。浜頓別幼稚園開園。環境庁鳥類観測 1 級ステーション開設。観光公社  
「北オホーツクランド」設立。クッチャロ湖畔国民休養地に指定される。第 1 回クッチャロ  
湖氷原まつり開催。宇津内小学校廃校 (3 月 31 日)。北オホーツク荘開業 (10 月)。  
下頓別の「ハルニレ」が、道の記念保護樹木に指定。町自然保護協会、白鳥の保護開始。
- 昭和 49 年 (1974) 斜内地区にテレビ共同受信施設完成。浜頓別の「カシワ林」が道の学術自然保護林、浄覚寺  
「竜頭の松」が道の記念保護樹木に指定。  
第 1 次オイルショック。学校給食、スクールバス送迎に支障。
- 昭和 50 年 (1975) 興浜北線から蒸気機関車が姿を消す。栄和地区から注口土器 (続縄文時代) 出土。町立図書  
館、郷土資料館開館。
- 昭和 51 年 (1976) 公共下水道着工。第 2 期山村振興地域指定。  
漁組ホタテ加工場完成。浜頓別町工業団地事業開始 (浜頓別、山軽、頓別地区)。
- 昭和 52 年 (1977) 坂下堯第 9 代町長に就任 (第 3 期)。浜頓別町国民健康保険病院新築落成。  
全町電話自動化完了。浜頓別住宅団地事業開始。(計画 104 戸 66,000 m<sup>2</sup>)。
- 昭和 53 年 (1978) 酪農研修センター完成。浜頓別上水道拡張施設完成。
- 昭和 54 年 (1979) 浜頓別保育所開設。特別豪雪地帯に指定 (54.4.3 総理府告示第 14 号)。浜頓別商工会館新築  
落成。過疎経過措置団体。第 2 次オイルショック。浜頓別町家庭用燃油対策協議会設置。
- 昭和 55 年 (1980) 石田孝第 10 代町長に就任。浜頓別小学校校舎新築落成。富丘、開明小学校廃校 (3 月 31 日)。

- 安別林野火災。123ha 延焼（5月19日）。漁組かん水蓄養施設被災。雪印乳業(株)頓別工場閉鎖。坂下堯参議選立候補 408,241 票獲得。
- 昭和 56 年（1981） 第 2 期町づくり計画樹立。国営農地開発事業浜頓別地区着手。  
水産庁さけますふ化場頓別事業所改築（収容能力 1,000 万尾）。  
異常低温により畜産センター放牧牛 18 頭が凍死（5月30日）。
- 昭和 57 年（1982） 主要道道音威子府浜頓別線国道に昇格。町民天文台完成。  
北オホーツク荘に特殊装置の風車設置。ごみ焼却施設完成。  
北見統計情報事務所浜頓別出張所新庁舎落成。  
浜頓別高校生物部クッチャロ湖畔でショウジョウバエの新種発見。
- 昭和 58 年（1983） 坂下堯道議会議員当選（第 4 期）。  
南宗谷衛生施設組合浜頓別地区ごみ処理場運営開始。都市計画区域決定  
クッチャロ湖鳥獣保護区に指定（58.3.28 環境庁告示第 25 号）。浜頓別中学校屋体完成。
- 昭和 59 年（1984） 石田孝第 11 代町長に就任（第 2 期）。特別養護老人ホーム「清風苑」運営開始。北海道農協  
乳業(株)宗谷工場製造開始（現よつ葉乳業(株)）。
- 昭和 60 年（1985） 国鉄興浜北線廃止。道立天北農業試験場改築。稚内土木現業所歌登出張所頓別事業所改築。  
浜頓別消防団第 3 分団（頓別）詰所落成。  
国営農地開発事業頓別地区、安別地区国営明渠排水事業完成祝賀会。
- 昭和 61 年（1986） 鬼河原さけますふ化場開設（500 万尾）  
町花（エゾノリュウキンカ）町木（アカエゾマツ）町鳥（コハクチョウ）の制定。  
町行政改革大綱策定（3ヶ年）。頓別漁港外港修築工事完成（第 7 次漁港整備計画完了）。
- 昭和 62 年（1987） 杉田孝 第 12 代町長に就任。農業集落排水事業下頓別地区着工。  
ウソタンナイ砂金採掘公園ゴールドハウスオープン。道立浜頓別高等学校改築完成。
- 昭和 63 年（1988） 稚内開発建設部浜頓別道路総合事業所改築。浜頓別消防団第 2 分団（下頓別）詰所落成。  
旭川方法務局浜頓別出張所が同局枝幸出張所に統合。
- 平成元年（1989） J R 天北線廃止。頓別小学校校舎新築落成。クッチャロ湖ラムサール条約登録湿地指定。  
第 3 期町づくり計画樹立。クッチャロ湖さわやかトイレ完成。
- 平成 2 年（1990） 一般廃棄物処分場供用開始。公共下水道（浜頓別地区）供用開始。  
斜内小学校屋体落成。下頓別中学校校舎落成。
- 平成 3 年（1991） 市川昇第 13 代町長に就任。バスターミナルオープン。下頓別中学校屋体落成。  
斜内トンネル着工。公衆浴場新築。過疎地域指定。（3.4.1 総理府告示第 9 号）。  
ウソタンナイ砂金遺跡が浜頓別町文化財に指定。  
浜頓別町畜産センター肥育施設完成（4 棟）。
- 平成 4 年（1992） 浜頓別町開基（明治 11 年）決定。北海道重点対策湖沼（クッチャロ湖）に指定。  
下頓別地区農業集落排水処理施設完成、供用開始。  
第 1 回全日本砂金掘大会開催。多目的アリーナ落成。白鳥公園完成。  
浜頓別町畜産センター肥育施設完成（4 棟）。病院看護婦宿舍完成。
- 平成 5 年（1993） 消防庁舎落成。浜頓別中学校校舎落成。サイクリングロード供用開始（浜頓別区間）。  
はまとんワイン試作。デイ・サービスセンター運営開始。  
頓別中央地区国営農地防災事業着手。病院外壁大改修。
- 平成 6 年（1994） サイクリングロード全面開通（浜頓別～猿払村）。

- 宇曾丹小学校体育館落成。町民憲章制定。
- 山軽台地遺跡出土遺物「細石刃核」「細石刃」が浜頓別町有形文化財に指定。
- ポン仁達内遺跡出土遺物「石刃核」が浜頓別町有形文化財に指定。
- 国道 275 号大通り歩道・照明灯改修（平成 7 年継続）。
- 第 1 回町民植樹祭。花いっぱい運動開始。
- 平成 7 年（1995）市川昇第 14 代町長に就任（第 2 期）。浜頓別町史完成。水鳥観察館開館。
- 公共下水道（頓別地区）供用開始。国道 275 号浜頓別道路着工。
- 温泉掘削成功（掘削 1,073m、温度 47.5 度、湯量 150ℓ／分）。
- 国営農地開発事業浜頓別地区完成（安別・共和・仁達内・ポン仁達内）。西尾木材(株)下頓別製材工場閉鎖。北海道北オホーツクの大自然で学ぶ会設立。山村留学第 1 号受入。
- 平成 8 年（1996）はまとんべつ温泉「ウイング」（サイクリングターミナル）オープン。
- 浜頓別町畜産センター糞尿処理施設（ハザカプラント）完成。
- 豊寒別小学校改築落成。漁船保全施設（上架施設）完成。
- 宗谷地区農業共済組合中部支所新体制開始。農山村振興住宅建設。
- 平成 9 年（1997）浜頓別町パークゴルフ場オープン。下頓別パークゴルフ場完成。
- 国道 275 号浜頓別道路完成（跨線橋撤去）。道道豊富浜頓別線区域変更着工。
- 斜内トンネル貫通。女性消防団結成（8 名）。
- 南環状線一部開通。温泉給湯車導入。
- 平成 10 年（1998）斜内小学校校舎落成。宇曾丹小学校校舎落成。郷土資料館オープン。
- 保健福祉総合センター・在宅介護支援センターオープン。
- 稚内保健所支所開所（仮事務所）。
- 企業立地促進条例施行。適用第 1 号小松舗道(株)移設。
- 下頓別定住促進宅地募集開始（7 区画）。
- 営農用水道事業着手。簡易水道事業着手。
- 北オホーツク荘民営オープン。統合保育所建設。
- 老人保健施設着工。仁達内コミュニティセンター建設。
- 平成 11 年（1999）市川昇第 15 代町長に就任（第 3 期）。
- 役場庁舎建設競技設計。第 4 次まちづくり計画スタート。
- 下頓別定住促進宅地住宅第 1 号鴨田二夫氏（移住）。
- 開明コミュニティセンター建設。アメニティ公園一部供用開始。
- 浜頓別交通安全条例制定。稚内保健所支所新築落成。
- 浜頓別町ゲートボール場オープン。老人保健施設「ふれあいの里」オープン。
- 北オホーツクトンネル開通。頓別中央地区国営農地防災事業完成。
- 平成 12 年（2000）浜頓別町役場庁舎着工
- 下頓別定住促進宅地第 2 次募集開始（5 区画）。
- 浜頓別高等学校創立 50 周年。下頓別小学校開校 90 周年。
- 平成 13 年（2001）浜頓別町役場庁舎落成。町制施行 50 周年・開村 85 周年記念事業。
- 第 5 回全日本砂金掘り大会開催。
- 浜頓別町高齢者等グループホームオープン。水鳥観察館施設増築。
- 情報公開条例制定。
- 平成 13 年（2001）市民風力発電所・浜頓別 1 号基建設。（愛称：「はまかぜちゃん」）

- 民間風力発電所 3 基建設。「コモチカナヘビ」が浜頓別町文化財に指定。  
 浜頓別の礎を築き、数々の功績を残された故「菅野榮助氏」が名誉町民第 1 号となる。(胸像建立)。  
 浜頓別北部地区国営農地防災事業着手。
- 平成 14 年 (2002) 廣瀬忠雄第 16 代町長に就任。世界砂金掘り浜頓別大会開催。  
 字名地番改正施行。
- 平成 15 年 (2003) 南宗谷クリーンセンター落成。ADSL 供用開始。
- 平成 16 年 (2004) 頓別コミュニティセンター落成。  
 浜頓別町、中頓別町、猿払村の 3 町村で構成する、天北三町村合併協議会設立。(同年 1 1 月解散)
- 平成 17 年 (2005) 民間風力発電所 1 基建設。斜内小学校開校 100 周年。  
 北オホーツクえさし・はまとんべつ外国人研修生受入れ特区認定。
- 平成 18 年 (2006) 廣瀬忠雄第 17 代町長に就任 (第 2 期)。浜頓別町土地開発公社解散。  
 浜頓別北部地区国営農地防災事業完成。
- 平成 19 年 (2007) アメニティ公園完成。新頓別ふ化場落成。  
 クッチャロ湖が環境省自然再生事業の対象に選定。
- 平成 20 年 (2008) 浜頓別小学校創立 100 周年。頓別保育所閉所。  
 クッチャロ湖白鳥公園内に足湯整備。クッチャロ湖でタンチョウの繁殖確認。  
 東宗谷地区国営農地再編整備事業の調査着手。
- 平成 21 年 (2009) 第 5 次まちづくり計画スタート。特別養護老人ホーム「ふれあいの里」開設。
- 平成 22 年 (2010) 神威岬が国の名勝に指定。浜頓別町火葬場落成。  
 斜内小学校閉校。豊寒別小学校閉校。浜頓別高等学校商業科閉科。  
 営農用水、簡水共同事業完成。浜頓別小学校耐震化工事。  
 菅原信男第 18 代町長に就任。
- 平成 23 年 (2011) 宇曾丹小学校閉校。下頓別中学校閉校。  
 第 1 回北オホーツク 100 km マラソン大会開催。(496 名出走)  
 浜頓別町公式マスコットキャラクター「スワットン」誕生。  
 ちょっと暮らし事業 (宇曾丹住宅) 開始。ふるさと浜頓別応援寄附金 (ふるさと納税) 開始。
- 平成 24 年 (2012) 浜頓別町こども園 (すまいる) 開設。新学校給食センター運営開始。  
 ちょっと暮らし事業 (斜内住宅・豊寒別住宅) 開始。パスポート発券開始。  
 医師住宅建設 (1 戸)。公営住宅日の出団地建替着手。配食サービス開始。  
 宇津内林道開削着工。ブタウス遺跡発掘調査着手。東宗谷地区国営農地再編整備事業着手。  
 町内一部光回線開通。白鳥団地長寿命化工事着手。
- 平成 25 年 (2013) 暴風雪で国道、道道、町道が不通 (1 月 26~27 日)。はまとんべつ温泉コテージオープン。  
 浜頓別町地域防災計画策定。防犯灯 LED 化着手。温泉揚湯システム全面改修。  
 こども園大規模改修 (屋根・壁)。はまとんべつ丸更新。  
 浜頓別町有害鳥獣減容化処理施設供用開始。下頓別小学校閉校。
- 平成 26 年 (2014) 多目的災害対応車配備。  
 菅原信男第 19 代町長に就任。(第 2 期)
- 平成 26 年 (2014) 保育料軽減措置を拡充。資源物を完全無料化。  
 住民基本台帳ネットワークシステム稼働。民放 TVH 配信開始。  
 ちょっと暮らし事業 (下頓別住宅) 開始、(宇曾丹住宅) 廃止。
- 平成 27 年 (2015) 運動広場改修 (芝生化)。病院基幹システム (電子カルテ等) 導入。

- インフルエンザ予防接種費用助成拡大。上水道管理システム構築（GIS）。  
 人事評価制度開始。固定資産台帳整備。浜頓別町 Wi-Fi フリースポット整備。  
 天北線代替輸送連絡調整協議会解散及び天北地域生活交通確保対策協議会設立。  
 畜産センター飼育舎大規模改修着手。宗谷地区農業共済組合改築。  
 頓別さけ・ますふ化施設拡充。常盤線林道開設工事着工。ウイング屋上改修工事。  
 南宗谷衛生施設組合汚泥再処理施設火災。ホタテ漁場被害、さけ定置網被害発生。  
 消防救急デジタル無線整備。斜内、豊浜、豊牛地区サイレン吹鳴装置設置。  
 コウノトリ飛来確認。  
 民間業者による太陽光発電事業開始（255W×4,286枚、出力1,092.93kW）。  
 浜頓別町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定。  
 浜頓別町子ども・子育て支援事業計画策定。
- 平成 28 年（2016） 町制施行 65 周年・開村 100 周年記念式典・記念祝賀会を挙げる。  
 故「坂下堯氏」、故「石田孝氏」が名誉町民第 2・3 号となる。  
 ふるさと浜頓別応援寄付金（ふるさと納税）に対する返礼品の開始。  
 公共施設等総合管理計画策定。  
 浜頓別町営球場改修。運動広場園路改修。  
 北海道日本ハムファイターズ浜頓別町応援大使に武田久選手・谷元圭介選手就任。  
 空き家バンク制度開始。
- 平成 29 年（2017） 浜頓別町交流館建設工事着手。ブタウス遺跡発掘調査完了。  
 ちょっと乗り（福祉バス）、いっしょ乗り（スクールバス）開始。  
 高齢者等生活交通サポート事業助成対象者拡大（88歳以上）。  
 交通事故死ゼロの日1500日達成。中学校卒業まで医療費の無料化拡大。  
 新教育長制度開始。特別養護老人ホーム「ぬくもりの舎」運営開始。  
 民間事業者による太陽光発電事業開始（260W×3,960枚、出力1,029.6kW）。  
 学童保育所が父母会運営から町運営に変更。
- 平成 30 年（2018） 菅原信男第 20 代町長に就任。（第 3 期）  
 胆振東部地震発生、全戸停電。2 日後の夕方全戸復旧。  
 浜頓別小学校にて 1 日防災学校開催。  
 第 6 次浜頓別町まちづくり計画策定に向け、まちづくり審議会の開催。  
 浜頓別町交流館見学会の開催。  
 浜頓別町テニスコート（運動広場）をアスファルトコートからオムニコート（人工芝）に改修。  
 一般国道 275 号下頓別視距改良工事事業化決定  
 浜頓別町中小企業・小規模企業振興基本条例制定。
- 平成 31・令和元年 第 6 次まちづくり計画スタート。  
 (2019) 町空家等対策計画策定。保育料無償化スタート。  
 交通事故死ゼロ 2000 日達成。同年 8 月 7 日に交通死亡事故が発生。  
 浜頓別町交流館「道の駅北オホーツクはまとんべつ」グランドオープン。  
 北オホーツク畜産センター育成舎新築。  
 新病院建設構想検討委員会設置。